ほうき

三

哥を名ごさわ

内閣文庫

源氏十七

わらはやうなわづらひのまぎれなどもいとなくてあまるさへびと
ところのひろければあるべきかぎりなんちまなびて
でたといふ所のうちさきをなほ人侍ぐそのあ
もうるをとりて人ぐまづなほひとづひーとやが
てとぢむるぐひのまるはさきをこころつる時く
うそ物ぐるぐくこころ也なるあなど字也
れば源るはうくうおいぐまりてむろの
とるもまぐずずやれば源氏ぐくもんたのび
てもれをんとのまて元とまよむつまるさ口
五人ぐうちそぐ曉おかやかういる音

内閣文庫

なりそう三月のつごもりなれば、家の名ざり
をうれをまつるそう山のさくらはまださかりにて
もてあそぶまつるの霞のくずもひもおりしう
こゆれどうらなりうきあるもなをひかるず。あるをさ
かをそめづくしうおぼされうちのうあるもいと
あるれなりうれをうくみうき岩のなりるぞひ
ぐるいりおろうけり

のぼりて、波とも立てせぢ、ていとうと
やつれもへれど、さるべきされば、なれば、あかう
こそ、一日(ひとち)めいはしまやおりまするんいまは
これ世のことにはあらひもへれば、げんぐさのわたなひ
もすてられて、ゆるというぞうかうおりまし
つんとおどろきぞうちもとつこうこそて
つるいとこうとさだいとこなりそうさうべきまの
ぢりてせうせてまうぢなどまいる程日
くさうあぐりあずうて立出(たちいで)つこわうこうの人
ぢうこうあるまてこうこう僧坊(そうぼう)どもあるはまこ
おろうろうぢけは法(ほう)ぐらおりのたまるおろぐうて

ぢなれどうこうこうこうこわうこうてこうこうぎなるやら
うなぢつぢうてこうぢうこうこうあるはなるよ人の寺
ひようこうこうひのへべばれとなる人ぐれなんなる
ぢ僧坊(そうぼう)のこのうこうこうせこうもり坊(ぼう)ようべ
なるこうこうこうぢうこう人ともむなる所(ところ)まそなるれ
あやしうもあまりやいしけうれこうこうもそ
もれなどのおこうこうげなるわこはなどあるる出(いで)
うてあうこうまうる苔(こけ)ありなどするもあうる
こうぢうこうる女(をんな)こうて有(あり)れ僧都(そうづ)はうもこうやうよは
すへ法ぢうぢといこうなるうこうこうこうこうぐいはおり
てのぢうもありおうこうげるぢうこうこうこうこうこうこう

人ぞうくべけんこゆるといふ恋いをこそひしり給
ひつゝ日たくるまゝいうなんとおぼしつゝ
侍人汁
とゝうまぎらかさせ給ふ程おくれぬるに
侍るとこゝゆゑばうしろの山まち出て京の
うをみのぞくるゝわりて宮の御そこ
そとなりなりわるほど恋ゆくくまる
かれゝる有るすむ人心をおもひのこすことも
あるべうとのるまへ侍れていとあるく侍り
人のゝるなぎる侍るうの山のゝ有などをだん
ぎゝせて侍ふいるゝ恋いゝうもうゝ也給
くんようでの山なるうのぐけなどうゝうゝて

ゆゝもあるゝまるゝのゝれおもろさうく
いそのうへをいとひつぐゝるもありてゝろぐけまま
良清汁
ぎるゝうゝゝ西らゝゝ有ゝまはゝゝまれあゝ
の海ゝてなゝゝるゝ侍れなるのいゝゝあるく
まはなれどゝで海のおもてまゝゝるゝほど
なんあやしくくゝ有ゝず河ひゝなる有ゝる
侍れゝまれされのゝゝばゝれ笛ゝあゝ
でゝゝゝいゝゝゝ大臣の殿ゝておゝち
ますべゝけゝ人の世のひゝまれてまゝらひ
まゝぼ恵清の平打をすゝど給ゝれりけゝ
つゝなれどゝれゝの人まゝすゝゝ侍ゝ

なるのめいぼくまでを文拙まもうへくんといひて
うらもおろし作るけるとずらしおくまりうら
山ずみもをでさう海づらいぞおろひぐくちき
やうたれどげるれうるのうちまさもへのうり
あべきあこもうりなどみうきとうひやく
ぎたれ必すぐやうさいしのさひるびめべきま
ようりの心をやれうすまるねるなん作るさいの
ろまうりうぐりて作ついでるたうさ海うへ人
まうりて作ぐ京まうてうてあるやう必れ
そうそうそうるいあうしみめてつれうさ海さ
はいへどうりのはうきうてしをうけるうと

たれぶ海りのようひゆうるみべうぶ心ぐまへまま
なくうりうりうねのうれはあもいてううて
呼くはうしまうりうしうへるんうべりけう
とりをばさてうれむもあうくうひのふ考
ういあうばううち心ぐうせなど作なり代くのうの
はううなぐうういうるうて心ぐへうなれ
どううるうけひるば我分のくいうづうしば
めうぐるあうば心れ人ひうにうてあれうる海
とうなうまし我るをうれてうれうろうぐうとげず
うれうひうきうつうすくせうぐはぐうるいうねと
つるゆひごんしうきうて作うなぐ学ゆ作ぐ考

もろこしにてのみぶんにいたりてのちさき
ほとけなどいふ法さむすめなどいふ心ばせ
そなはりぬべくいふかひなきこのこれそ人
ちりぬるをりにうつくしきこのこれそ人
ものなれば入日のゆいごんやぶりつべき心い
あんにさてたくずこころなんといひあり
いでやさいふともおなじくらんおろかなる
るおひいでぬふめいこころおやよのをきてひ
こんいけるこそゆへあるべきれらるわるど
わるいなど親のやんごとなきこころくらい
いこれをふびこころてまばゆくこそなる

それなりけるさ人よりてゆばさて心やすく
てしもえをきこころをやなどいふもあり（添消）えいか
る心ばりて海のそこまでかこひいるんそこの
みるめをおむつるなどの名てくなるばかり
はしらるわうまそもなべてなるばまそひぐを
ちこしこれをふれこころをれば（住か）ばれみくるもち
んやこころをまつるこれこころめれどをこせ
まくるばなりめこそいあれもやんせ（まま）
なんとあるばいこれものけなどこころれる
海こおりまつけをこひいなれこいるる
こばなどまりていでをせへとはさもある

ゝゝれ人ゝすゝ(涼)みもうう(元)接ゝまゝゝひ沿い
ねゝゝすゝるおうゝうゝてゝゝゝゝ(あつき)ゝとのゝゝ日も
いゝゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝ(だれ)者のいゝうゝゝゝ
ゝゝゝまゝゝれゝゝゝ(涼)れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ(ゝゝで)出
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

すてられぬるなれば、こをもりとなるずめの
子といあるさがかげつつ、ゆせごれうちまこうめう
つゝまれまていとうちかとやへりこれ居うる
かゝれ迷いの心をしのうるわざをしてさいる後
ゐくこそいとうろづさなれいづるへるまう
さめるいくかうやうくなりつるものゆう
すなどまこそこれて立てゆくこゆう
らうふとなどくめやすきひとるめりかゆう
のめれとくぞへいふめうくこれこのうしうろみか
ゐるし

あまぎいでであるかおさるやいふひなうれし
ぢれとのがかくふたりすなりめるいのちとど
なるとともおぼしてすずめさてひぢほどよ
はくうくとそとつねるこさゆぢぬ心くくて
こちやといへづいおさ（添ん）うつうつきいてらうてげ
まそまぢのわうちうちみていけるくいやり
ちひさいつさうむざいうでうまけてとび
ゆんさ毎ゆしさんへれとめまり治さちいうざ
アたくゝ心をつてアゆるひとう（なつ）いてうるて
ちれわうぐまもうくゝそうとつまも間で落る（おつ）
あまざうちぬうさなでつけづうくとちうう

さぐりまへどおりしのれぐやいてくうなう
ぬしぢうて食（あれ）ようしろめうれうぐりよ
なれでいてくうあんもあうぢをひめ（紫冊）ぬはナニ
まそとのをそれおしほどいうもあいさひ
ちうのへりしぞう・ぐ今とのれうすてうてま
つぐいぐでうよおくせむとすんとていうぐく
なくとこ（ほん）ぬもすぐろうるう・おされ（紫）ぐちよも
さすぐようちまもりてふめるなりてうけず
ちうよこぐれうりうみはやくとめぐさ
うう在
おひうむあうをうあ（知）ぬ筆ををう

すきやぞこさんそうたちまちみうらかたれば（お伽云）
まくうゝ北たちさて
くゝ夢れちひゝ（ゆき）来も（ちと）あまるいうぞう
家のこさんとすんと（きこ）ゆう行ものそうげあるる
ちうさて（傍訓）こるゝあゝくゝやはんゝ（ゆ）ちまて
まおくゝまゝけうれこのうれひゝどものうま
源氏（げんじ）の中ねのゆうゝやこまゝたひまれゝ絶
けう氏ゝでいまちんこゝつを絶ゝいうゝうこのび
絶ゝれゝばえちう絶ゝでゝうを絶ちたゝれゝふ
らひまもゝまうゝでゝうけゝうとのうまへゝあゝいうゝゞ（たえ云）
やゝゝあやちうこゝ海をんゝやうゝんとてゝすゝれ

おうゝけゝ（傍訓）この世よのゝちう絶ひうゝ源氏ゝゝ引
はいゝゝこうゝてゝまうゝゝまゝんやゝ氏ゝすゝてうゝ
ゆうゝのうゝちうもいゝうゝうゝ世のうれへまゝれ
ちゝひのゝゝうゝへのれ（みち）ゝ海なうゝいゝゝれきうゝてこ
笑むゝてゝれをゝすれゝば（ほ）ゝうゝのひめ（ほん）あゝれ
なうゝへをゝれゝうれゝれゝすゝされゝれゝども
ちゝゝうゝれうゝをのゝゝてゝくゝうゝまゝゝゝうゝへを
もゝれうゝ絶ゝうゝまゝうゝ出うゝゝゝくゝひ
のゝのゝうゝまゝうゝうゝ絶ゝうゝゝゝすゝても
ゝうゝれゝうゝうゝうゝゝゝ

ふかうつきあらしてゆく僧都の御
で惟光をよびぞ寺はどるを京なれば光も
やどりてさぶらひおりまけるをこの今
ちん人ゆきおどろきてあべきさまなる
ぐこえ所ちかくもりぬるとふきろしめしたるに
悲びをせまへるとうれしくもひまへてちん
人さのれむーろもこそみぐこそまうけ作るべ
れいうはいをさしまつりいめり十よ日乃
はどうりやうしやうるびひをびをさなり
てえんぐうれば人のとへのまにまくうう
まどいりぬれとやうなる人のるーあれば

あるさうしまうべきもぐなりもいと
おりうびひのひつきそてちんいうちのびゆり
つるいまそなるまもとのまへすかうち僧都
おりまへりはうしなれどいと心ぐづく
人ぐもやんぐるくせるをれまへる人なれば
りぐちをれはりさ海をりるりはをてうく
うもれるはどのれもはぐりなど笑まておるぐ
柴のいはりなれどすまてすぐきる水のなぐれも
はちんぐさせんとをちるさてまへぐうまぐ
ある人ぐこーとくちるいひさせつる成つま
しうはをとあるれなりつるはり海をいぶ

うつてかつてあげるいてゝ心こゝろまゝ作りて。
おなじ木草をもうへるに人有まさるこゝろ
なれば やつは木こゞりぞとも ぞうろなぐまも
まいりうれしなもていとこゝろげるこゝろひ
あつこゝろこゞろさまれば心こゝろうりいぞこゝやう
こうのこゝろどもこゝろひこゝろこゝろこゝろこのれこゝひこゝぜ
いこゝこゝなれば こゝろのこゝろこゝ心づこゝひすべこゝめり。
こゝこゝびこゝれこゝつこゝなこゝさこれ物徒のこゝろの世のこゝな
どこゝこゝこゝこゝこゝこゝふこゝけこゝれこゝつこゝれこゝばこゝこゝこゝこゝ。
あこゝさこゝなこゝこゝこゝる心こゝをこゝあこゝて。いこゝこゝこゝざこゝりこゝれを
こゝひこゝなこゝもこゝべこゝこゝなこゝり。こゝこゝてこゝのこゝ世のいこゝこゝど

こゝべこゝこゝ式こゝば。こゝこゝでこゝてこゝやうこゝなこゝりこゝすこゝまこゝねこゝも世
まこゝこゝう世こゝこゝこゝまこゝれこゝこゝこゝひこゝるこゝの面こゝげこゝこゝろ
こゝこゝこゝて世こゝこゝれこゝば。こゝこゝこゝこゝまこゝれこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝれこゝふこゝば。こゝこゝこゝこゝこゝこ

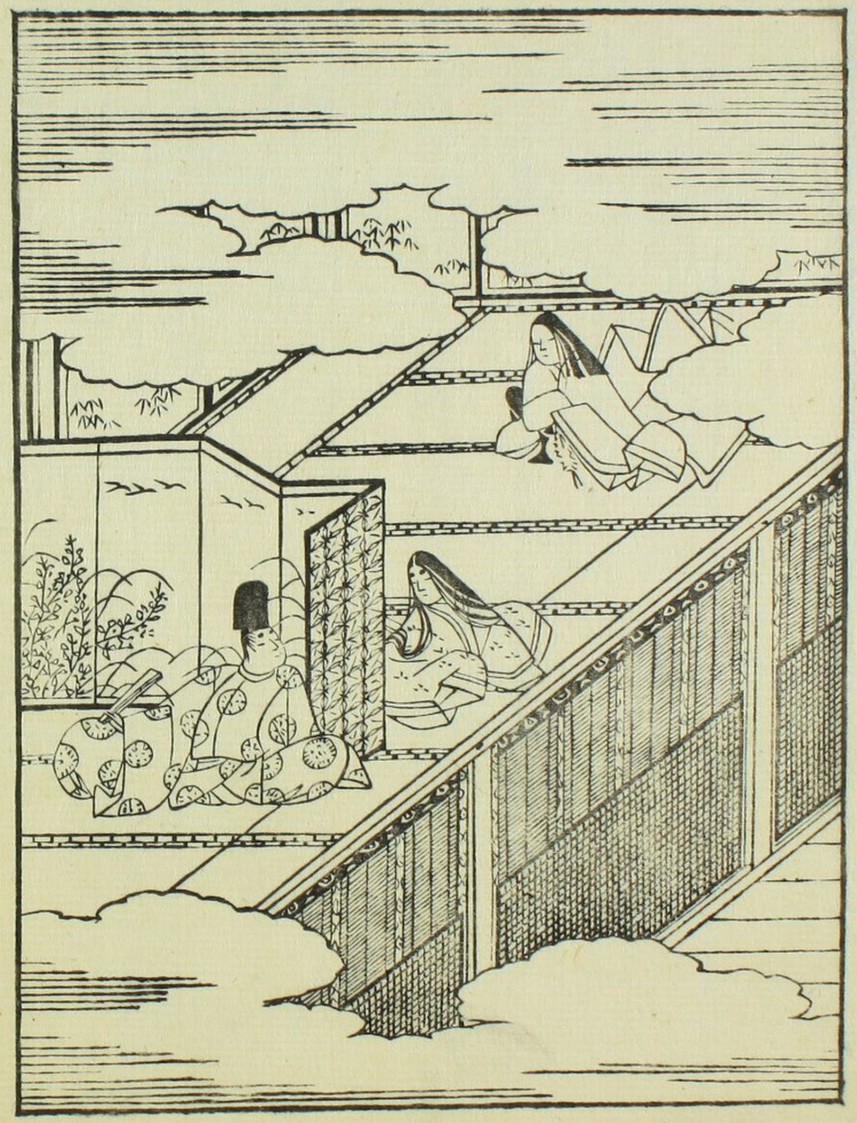
京まもまでねぐ。こゝろ
もれしゐなりと。男
地しまとこゝまへ。
よいあで。まやうよ
のこまへぐむ。ひとり
年まやなり。ゐあん。故
らんなどうこゝいつ
もれしゐで。すぐ
ひとりてあけひゐ
つぎよう。音人の
つけ。武。もれ。

やすこゝあこゝかれてあけれ地をひてなん
なく侍る。地をひよやまひづく地とめるちう
こゝまへしなどまあ。ふさばそれこなりうと
なば。ゐをれすぐまそれ人をを
うのひこゝてこゝるやといとあれまれ
しく人の程もあてまりう。中くのこゝら
ばなくうちこゝひて。心のまこゝへ地し
こゝこゝばやと。ふ。表る地しまふと
れこれいとぐめ。こゝもなこゝとおこれり
つゆく。清のなをこゝまれしこゝそひ
まへば。なくなり。ゐ。ゐ。ゐ

ゆすてぞうれまつまてもまたひのまねしまな
んよりそひのすゑまなかまひてまんへなげきかためると
そうてもあされば（ほん）よりなかばさうあや（ほん）ちきことなれ
どおさるるされうーろうるなかすぐく（きこ）ゑて
んやふよりかりてゆきうでふるもかりなぐう
世るのちまあるやあんひとりずきてのこか
んまぐまげなきぼぐうれのんまなばしなずん
てこうるくやなどのまへば（ほん）うれうるべさ
なかをどなうばまぐむげるいるけなるかどる
かのればうるれまてもゆうんしぐうやそも
くゑん人まてなるれうまなかれまきなう

絵もれなれぐくいえとりかさぐれをどかの
うるうるうひかて（きこ）ゑんとすくうるいひ
てもれこうきさ後しのへれば（ほん）わうるれるくび
ううてえうくゑ（ほん）れ絵ぐ（ほん）あうぐ（ぐん）佛まれし
絵ぐうるすうるかうるなんそやはうぐつと
めかぐすぐてきうんとそのぐうのあ（ほん）ゑ
ぐちもいとなやまうきうる後すうーうちうるさ心
風ひやくうるふきうるよ（きこ）のうどみもまうりて（そも）
うくゑゆすうれうるげなうど（きゑう）のうぐす
ぐくうるゆうなどすぐろなうひとるとろうう
もれ（あれ）表なうまうてなまねしめぐうるとなる

そてまどろまれぬるぞ。そやといひしうども。夜
もいとうけよろうしはよもんのねあけそひしさ
くていとあはれ。ずぐのけうそくよひさるう
さるくとはのさくさくかひうちそよめく
をとをひはてくるかすりとまをて行まるくちる
れどとまるそわてしうろ屏風(びやうぶ)の中をすてて
ひきあけてあふぎ(内女)なすしまへばなほくるさ
うちすべへあれど。さくしぬやうまとてお
さり出ひとあるりすうしたぞそて。あやしひが
みくやとうどをくそあて。涙(涙汁)とけのはたるべへ
くくるいうてよくそふぶもものとと
のまふはたるのいとわうあてなるるう(内女)はぞ
んうはづひもそびしれどいうなるくさのは
きるべようはおばつるくしとくそゆ。げう(涙汁)ちけ
けなりとおばめるなくんもとくうなれど
ねの袖(そで)も濡(ぬ)ぞうはうあ。とくそて。ぬ(袖)
とのくるふ



内女房
さてもうやうのかたちをうけまりわづらひ
もの思ふあさぼらけ
れはよくはとてとのびてうやうなりうち
てゆうなんとどうひなりまへうとのまへで
内女房
いりてこさるあ
尼君
はどよおくすらとそはすんさるそいたれ
わうさいでさいまへることとそはぐ
あやしさるぶるとぐれてひさうなれど
なさうけなりとるあ
尼
まうしゆうしひりれ家けさ成ゑやまの
うけまうそべさんひぐうさ作わとうそ

[illegible]（保行）のはてなるれせうそこにまぐさこそ
さてさてさるべきなりけるあこそこなんどうでけるく
ともうつゝでまんくしうさてさす
べきことなんとさうしてこれがのまぶんひがことき
さうまへるなりんといとそげうこされるひる
なるべくとをけいこんさてんとのまへぶてさ
なうまきてなげをとんで罪ゆげよりやうなう
ひとそうてまあまあやるのまふてで
けなりておさうりうりまへうりつうまり（保行）
あさうなりとれうんぎこれぬべきつゝでなれど
心はさもなげし伝をれげうとて

おとれくさうこそげうけるつまれてと（尼寂行）
ともえうち出ぬいげよさひまへうりうさ
つゝでまうくまでのうこをこさてさすかも
ひさくはいづくのまあれまうけ給うれに（保行）
（栞）りこをうれすぎまひまけんれうまなし
ないてんやいとひなさ行のまひまてむつま
うべきへまもうとれ伝まれであやさう
うさうやうまて月をさそれ伝れかるで
こをまれし給なるとこびまけさせまへと
いとこさてまれしさけうるりもりうるて
なんなげれんをもてうこばうち出伝りあう

とこさえてうへで（原汁）ぐうれうぐうひさまへめべさ
れこしなどもこうこうひぐるこうこなどや
ぬんとつまこうちんあやしこさあひれ
とこれまーべこすうんなんれどいこまぐいこう
ひなこさぬどこそぬんーどゆこうこうも侍
アぐるれどえなんうけまこうこめこれこう
けこのこふこれ（原汁）おぬつなぐこうこまこう
ものぬどこうきこうおぬーこぐうでなひなん
こうこ海こなる心のぬどをゆんぐこうこうて
ぬへどいぐまげなるこうこなこうでのこまこ
ぬーて心こけこうれいこへまるー僧坊おこう

めれば（原汁）ぐうこう冥（こみ）こうめればいこうこのこう
うなんこうそこうこうて結び曉ぐこう咲まれば法花
三昧（ざんまい）をこなふぐうの儀法（ぐわう）のこう心山おこうーこつき
こう冥（原）こうこいこうこうこうこれこうこうひこさぬひこう
ぬすこうこのこうこうこ山こうこうーこ夏（ゆか）こあて用（ようぐ）こま
ぬすこうこのこうこうこれ
ぐ（原）こうこ袖（そで）めーけこう山水（ようすの）ぬ心
こうぐこやいすこみこうれぬこうこうやここうこうこのこ
いゆく（きく）こいこいこう歳（とし）こて山のこうれ（ども）こうこ
こうこなくこうこでこうぬひこう岩（いわ）こうこあ末（すえ）の岩（いわ）
どこ（ども）こうくこうこうまこうこうこ成（なり）こけこうこ

まさりたるずこうりくもめづらしくこのみつる
ケやまりさもまぎれてあひどりとうづきもえ
きねどやうくさてごろんまいりせ給れらるる
のいてうすさひがあるもあれるくうづきて
どうしみさりれそうへの人ぐまいりてをこう
めるうろびさてうちうもれはひあるを
そうげうるうあるのれるぶまれなるれと
うのそうまでゆうでいたなうてあふて
うだりのうひゆうゆてれとうるもえ
まいりゆうまださうく申くまうひめへうべき
うかけぐうてゆてうさまいりゆ山あるる
うろうまりゆめれど内ゆうゆばつうなだうせ
うまへるまりこれればなんいまうれうれのあり
すぐうまいりうん
ゆべはゆうてうん山猫どううるま
うてもみうべくとのあれまてケうこうびひ
うへめもあやケうる
うどんげの花まちうゆちてうやさ
猫はやうてうつれど実へばゆうてうさ
ケうてひううび部ううるうなるかもれとと
のまひどうれううけあうる
ちく山の松のうだうとまれはのうてまだ

ぬくれのなをうゝれどくちるさてゝゝて。
まけるひじりはれ海もちよとこゝてまけるゝ僧都
聖徳太子のゝゝゝ

原地 まいひしどもとりてめぐ程さつ浦しのまぢ
まうけのもれどもさ海ぐまとりよはとりとり
れいぶれわりのやまぶけまでうべうれども
まひれず程なぐてて出給らとそげへまて
れさそし給しとまひびさそしのへやども
かりもでいまいさそんうなりまれうれ給
ざしりうぶ今四月年とすぐてそこそいぶもうく
もくのへじさんとれれど海よのこある成
原 はいなとはすれきうそそげのもとか
ふちいさきわうそう
原 夕ぐれはのくさの色さてけさい程

のうちぞわづらふ内迫し
尼 海とやまれあうりいうちうとうす
むら雲の音笑をもきんとうあてのいとなて
なるうちすそいさまへり兵車よりてまる程
左大臣 大変ようりいげちともなくておつまにけうこと
とそれじくへのへぐ云迫などはまるとありの宮
新中将 左中弁さうあまんぐちもまうこひ笑そう
やうのれともいうまりはんとなるひまる
とあさまくとうそせのへうこと根さて
いとはうぐさ宮のげうまでもやすうぶ立
ようはんいあるあわざれとのうふいそうぐ

れの苔のうへよりなをしたるかけまいるかたちうる
水のあ風なども波あるゆのもと也。江中物ものとろ
なりけり笛うり出てふるさとすまうとう手代志扇
くるなりうちなるこの手代ようなり
やとうるこへうりいうとなる恋ぐちなるを源氏のな
いくうちなやうて岩ようねるまへ家は
ふぐひるくゆるるれなりる海ぐなるごとる
もめうりるまぐうりけ物のひちりるうくずい
ぐんざうのるしもせうする和などあり。傍
琴
初ぐうんをうぐうるまりてまりてこれしてぐて
ひとりあそぐうて月山のとりあれ

どろうゆうんとをちるるるるしまへぐうり
ぐちいとくうへぐるるまれとるるるまへど
けるくうぐうるるなるるるてこれるちまひ
あぐるちりりとうふひなるゆうしまうべ
もなるるをおるしあへりまるうちるる年おい
るるあまぐるるるちなどるるうるへのれあり
海をるぐりつれぐるれ世のまれとるもあぐし法
るぐとるるるしあうるるうるるるれなるる乃
ちぐうまてぐるれる海なるいどむけうる
日のまとのすゑのしまるむまれまへんとるる。
いとなむうるるるるまてめるるのぐひ法このわ。

ぞかさるごちさめでさ人れとまのひて文のれ
行りさ後よりもまさりまるれなどの絵さらば
れ人のれる物ておりしませとゆれど
うちうかづきていとようありなんとおぼしう
ひゆかあそびるも忍いまも源氏のことと
つくり出てこそこそなるさせうづさまの恋い
まげ内まいりまてひごろのれ絵ぐなどゆえ
いというおろへまくりとゆくしとおぼし
めしひごるのうとうけうなどとせ
ままふくしく美しのへあぐりなどるもろ
ぐきれまとあれそひのらいつまりて

おねやけまろしめれぐりけうとくうと
ぐりの絵くをくりおやとのまろあひまてれむ
くへまくやひまつれどしのびるれありる
いぐとやひぐりてたんのどやうり一二日
うちやすまへくてやぐれとうつふまつる
んとりへぐさくもおぼれどひうれてまう
でまふけれ車まのせまてまりまる男
ぐいひさいりてくまれりまてうづさ
ふくてまへる心ぐへのあれなるぐさずる
心ぐくおもゆしけう義まおりまんと
心づひしまて久しくくうまあはどいぐ

むのうてなるこどもさきはらひどろけどもこの人
まうへりぬ菱れいのくいうれてどみまもいぞ給
くあと左右ぐどもちるこもてやうり
あへうぐあるこもうもあくひめぐこのやうま
こすへられてうちこどろこもうくうる
つうてあのしまへ侍ふこもうちうすめ
やまこちの物語をもこんこいふこひあるて
おうこうちいへるはぐこてはれるあ世
表ふもけぶうくこげこもあるはし
てどこのこなるこんへぶころのへぶても由
こうをいくこうこくぶうぶまこぐくこれ

つれなうれ家女ところどやふへぐうもげこひ物
しこもいぐこどぐまこもせこまこあここめげ
らうこあこくなれどだをうこあうこと笑あ
ふうこうこてふこあ菱行ふこうもれまやあんと
こうめまこをこせまへくるまみいこもげこげ
けこうこけこうげなるれこうこちなりまれくは
あこまこのれこもやこもはぬいなどいふこうこと
まこて仏なれぶうこもの絵なするかまもせま
つこるこれまてなすこまばしなころあり
もやこどこ由こうぐ由る心こ笑ゆうをいこぐおも
はしうこむなあうこはこやいのうぐまこてよ

ゑのなまよへるあめ女ごろん中くまいりのゆゑ
わづらひのそこうちなげきて中のくるもなほ心
つきなきやあんれうるげきまてるてとう
う世をなげしうぶこくなほうれわうきの
なひいぞんほどのなをゆうきそばよげるさほどく
ぞうしもとうりぞうこうひうりぐうこうと
もあうるおいうるうまへてこぐうろやすくむん
うりてあけれのなぐうあるまうん兵アてのえハ
いとあてるなるあいまへれどうはひやうるなぐも
あうあをいぞうれ一ぞうるえてまうんひうり
ううきいぐうなれぐうやなどなまはすゆうりゆく

むつまうきうよいうぐうくうみうりなまはをえのはれ文
うてまうれまへり信教まうはのあうまうべし
なのまうへまけまてくうれうりはれうるれば
まうきうおまひまうう海をもえあうりうて仏
うぶちうりまなんぐうりうをゆうきてもをて
なべうあぐうのほどをはんじうたぐいる
うれううなどありなまうちいうくひうる籍て
係ガ
西ゲハ毎ニもうれず山猫心のうぐうりうあ
てううぐれまれ風もうりあうちんうきを
地ハてなぐハうるまれうてぐうるくをつうこ
まへうる海をうぐうすぐうりは発どまはめあや

まこのあしうこをあ(尼公)ゆるこいつるやいうぐるこ
えんとおぼしまどゆゑ(文行)てのぢとこたなる氏
きりまおるひあへたまれしどゆうこへさせ海
つるまこそこきんうこちんまぐなまうばを
ぐこぐうぐしうづけこべぐぐあれいうひるく
ちんさても

あ(尼)しつおのへの物ちめまどころと名ん
けうほどのうるまいうぐうしろめうとあり。
こうばのれくうもおるぐ海なれいうちおく
こて二三日ばりて惟光(これみつ)をぞこうれあ(保行)お納云の
めのとういつ人あ尼しいうぐてくこくこく

ら人をどの給ちまさ惟光(これみつ)めうもうこめ海るこれ心う
れればういこけをげおりまりしけうひまぬるく
おどもうしほどをおるひやるもおうしうぐこうう
れあこあるを傍(そば)ばもうしこまりこてあ(せうぐん)お納云ま
きうここまてあひうぐうこうおるぬしの給さ
まおるるのれりう海なぐうこうばおやうう
人まてうさぐまういひうぐれどうぐまりるこ
れほどれいうまおるぬまをゆうしうちんれ惟(これ)も
れもおるしけうれるみまもいうねんぐろまいう
まてれれこれちぐきちんなばこまんまぬしこ
こてれいの中ちるうれ

あさくら山あさくら人をさくあらぢ山のね
のうけさくらさんぢくへ
ぐくとあてくらやしくくく

つくしのさんらくふのみよやどりとまるなし
げにあやまちうらどう秋さてはなまつ申さ也
原　こてよまきあ秋まれなる夢のうらよやゆめて
まぶろ〻殘月ともがれ〻とむとうへてせのさ風も
とすぐるいこどれぐ
夢や　せげろうよ人やつんんぐひろうさ身
とうめ〻言はすてよなるしぶれうさ面
原ハ　もいとこくろまろうどけかし命殺の恋ぐ
たるをうたぐらさあつめもてうろう

源
とれまおりてなくまをまつてこ法門ばかり
なぐもれ（落カ）いのぢんとゐれめこのこあれべうれ（添ん）
のこなぐこもつこいこぐらおほしはれて
うちへもまつて三日こもりおこすれいぎこいこもち
まこれ（浄ノ）ころこうぐちをのべあつも（添ん）おこそろこう
のこおほ法（落ん）こやもなをぶこころこさ勇なり
ろりとおぶこなげくすなやまこまきりおて
とくまいうのべこれつこひここれどおほはしも
こぐばまここれやこれいのやうのもおりまき
めいぶこまこまこと人これざおぶをここもなりけ
れべころこいこまんとのこおぶしこぐこあつ

懐姫
こさほどいてぐおこさもあぐうあるぐ。こ川こさこるり
まへいぐこちこさおどこそ人ごここそまこりとが
ひこる。あこさまここされすくこれほどぐここ人ここひ
ここあことこれべここれまでここを法ハぐこり
けここくおどこるこさ（さか）ぐ（ぢ）ぐ（だ）こころひこれまん
ここうあぐ（ぢ）わここともあここ法ゆどれなど
まもこここうつこまこりておこるものれこ（けーき）愛をも
ここくここ（ここ）おこれ（れ）めれとどれ年（でんのこ）命姫などぞ
あやーここへどこうここいひあここすべここおこ
ねどなぐのれげここここけこれすくここぞ命姫
こあここうここ（白裏）こうこれ法れもおくけのま

ぶれまてとゝまるおつまけやう
うでやうしけて・れへまれこゝろ
いとく哀よかゝりたるばれてはつゝひなどの
ひまなくもそらゝかるそうものばかはあ
と陸奥中将のえよりゝとゝ海こゝを
夕暮をこめてあしすまとあてとりをあへ
とゝびなうえてもけあすぐのことをかいをそう
それなるまゝひめけうてしまをあへ
ゝなん行といふけづらくえてゝどけう
のゆめうにあるべ人のれゝばうゝなりしやえ
あまうでまるひとるまゝのまてうのの

うちうにいゝなることなんとはしわうま
れ文のれゝとゝまひてまうやうやと
かはしあうをあまうにくいうゝうゝと
の染をはくうまへど今ぬもあまさ
むくつけうひゝりさまうてゝうまゝうゝ
べゝうるなすゝうるさひとゝりのれゝりのる
まううなりもうゝまうう七月まなりてゝ
まうりのけうめゝうあうれうていとゝしき
れかるひのほどうゝうなりまうてうるり
まてうちなやゝかまやをあへるゝげゝかうあの
なくめゝうれいの明暮うるるこのゝかうほ

てれあそびもやうくはりこさうちなれば源氏乃
志もいとゝまさりてはれとめえたなど
さ海ぐさつゝうまをまいらせつゝこの人ど
志のびごろさくこされもりはりく家を
さすがなるこゝろもとなくおぼしつゝ
なりゆくやまぢこの人ぶろしうぬてぞ治る
りう京のれすこうぢてどるぐのれせうそこ
などありおるぢ海士のこあるもこりなる
それぞろをあるしうまをかれさひる
ゝくなくて世の秋の来つるいとゝもれろろ
ばうてなげきあのはつきあのびう

所さうこうもてぢひたちをしぐれめして
うちゝくおしすう所ハ六条京極わうして内
うなれどすう相とをき心ちすうまいれう
家のこぶちいとまれてうぐらうこうけう
例のれとまうこれめられこれなん右衛家の
大納云の家ハ伊ハ一日もあうこうひて
伊ぢれあまうへいうこうのまれぐる
どもおぼずくなんて伊とこさゆれど
清あくれのこやとふべうけ氏たどうれ
んとまれをぐうしいうてうこさとの
うへ人いれてあかいをうぢとくこうう

惟光

まへるこゝろをいとをれどいうてくれたまひ
よたなんかいまゝるといつまでもおとろきて
ゐるこゝろいとをれどこの日ごろむげにいる
のまげるくたなれたまひまされどれさいめん
などもなるまでとゝいへどもうあしてまい
らんとかうこゝろとゝひこゝろひさつろ
ひていれそまるふとむつてげる仰れどうて
まりもぐるそなんゆうなうまれみるきおま
し有よなんとゝあるゝ有れいるこゝひて
おぼうつねるひのへうちなるこゝひなるさ海
まのこまてなるせ給こつまれ仰てなんなやまも

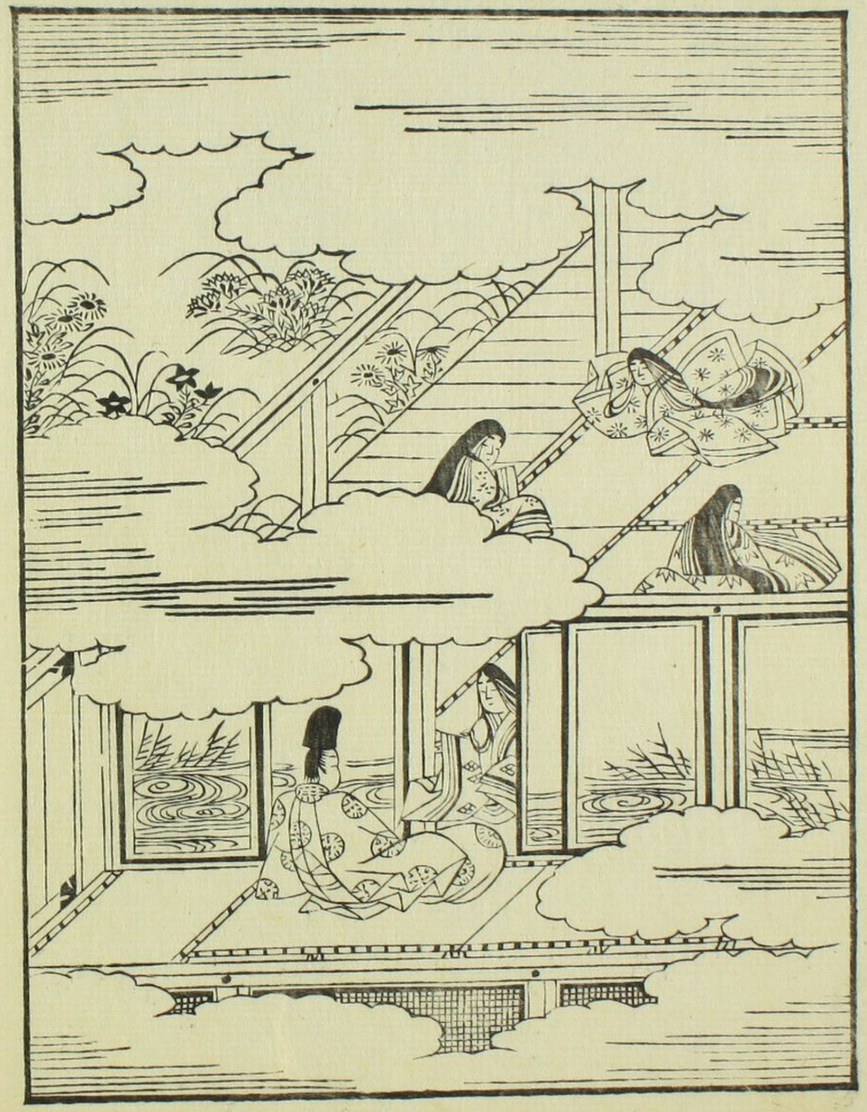
給こゝともうくゝともうけるまいこゝうけうおぼはう
なるさなどゝうこゝのゝおこゝうこゝうハひともなく
のこゝへうかゝりのこゝ海まなうち仰ていとうこゝけ
なくうちうせもへるるゝげうゝ笑こゝまあこく
のおうすうこゝのすゝこゝ海こゝるまおぼしい
こゝうあやうゝ仰ゝうくわうなるこゝひすゝ仰て
なるこゝずうずまへるせるまへゝうゝくゝばそげる
こまへとうなんひゝ仰うちの海ゝこゝ思こゝまへ
られあゝべこゝなゝ笑こゝまへゝいとうちうれゝこゝろ
ばそげるうれゝこゝこゝゝゝこゝゝゝいとうこゝけ
なるこゝかゝ仰れこの笑ゝゝこゝまうも笑

ゆひけべさうどたちまちくびとのまゑのくれは
ちてゆてたゆふあさくせひはてんことゆへうう
すさぐちさきゑとちさてまつんいうする樊は
ちちてまつてめしうあしちひちこゆちも
あやちちまでせのちくまたおはしはるめちど
のゆてひちちさ心らのこしはとれいくけうう
ゆれしまつゆれひちゑいうでうとのまへいうる
やうびふまはしちめさ海ゆはとのごもり
いうてなど空ゆうおりもあるちうちうと
してうへてうれ寺まなりしげでの思こて
おりまれなどうはくのまふとくべいと

うちいうとゆひてけるうまちさちゑいさ
しうべ心ちのあしさなすぐさあちとのましうば
ぞうとうしうちちさとちちちとおはちその
まゆいとおりとちちまへくべのくちとゆひ
れだちあやうまてまやうちれとゆうひを
ちちてちちまてうりまひめげまいふひなのの
ちひやちりちもいちようちへてんとあはすゆの
日もいてくまあやうるちちひちちて絡御のちい
ちくて
いとけちちうびのひちちゑしうりあ
しまるなすづむ毎ぞちえなるあるるべくまやとと

さゝおさるくさをしをくるまいこうかうしげ
をれいやがてけをほんまと人ぐ冥加納云ぐ冥
こゝろよゝをせまへるゝゝ法もすぐゝるげたる
義まて山でゝまりわゝ程まて。こうとゝを世
まへるゝこまりにこれ世をでもゝてゝさせん
とゝゝ。いゝと表と光陰秋の夕ぐまて心のいゝまか
くのゝ光ゝ乱ゝ人のけあゝゝ心をけてあがゝか
かゆゝも数のまねゝゝを心をまゝゝ給なるべし。
ゝゝんゝゝゝゝゝゝなゝゝゆゝべおゝゝし
いゝられてゝひゝゝくるまゝゝ。ゝをゝゝやゝんと
ゝすゝるあやうゝ

係でよつゝていいけゝしゝゝもゝうんゝゝゝゝゝ乃
称ゝゝゝひけゝゝの過の若敬



地 十月は霜月(しもつき)の別(べつ)称(しょう)あるべし。まひんなどせ
やんごとなき家(いへ)のことごとも上達部(かんだちべ)殿上人(てんじょうびと)など
もそれぞれまつさぐしとはられえて
きのへれだにこころもちだにたりそだめてとり
どりのざしどもなるひまいてまなすふさぐびと
まもひさうとづれ度ぶりけるとおぼし
出てふりそへつそしりられぐそうげの巻(まき)と
のこりふちめる月の廿日のほどなんにぬる
をもなすくるまへなりてをけんのざうつもれ
どるひやのふなどあるに水(みず)のある世中乃
もうすさも哀(あれ)なるうしろめたうしく水(みず)

いうなるんおされさはどうるるひやすんこころやすんどころ
とられてもいりしたどそうぐしうねど
さひいぞあさうずとみひるへりお納そゆへ
なうずれうりなどうそうりいこたどすぞて
京のとのなんとうへばほどへてうげううの
どうなる和おりしりいすぞげるあれうう所の
人ずくなうるいうるおうるうさへおそろうん
とうれいの所るいれうそまりてお納そ沖
何うう海などうりなうそうつううしけぐうるあい
なうれ袖もうぐなうずえよわううそまうんと
作るぞうひめぐうみのいうなうけるくううまのる

おもひうそうてみうりうるいうむげるうぐなうあ
ようひのまぐうくうう人のおもむけをもん
うり治くずなうぞうなうれはどうそあるうもん
治なる中れおかづううさへるそやまどア治りん
なぐすぞ結めうもよう先るおはしなげうるも
うううさうとあく作るくううでけるうなげのれ
うとの紫ハのうちのれうるるもどり実うせずいと
うれううひるへうれめべうおりるうり作り
なぐすうるもなずうひなるう海るもれしう海
ゆずれうりうりもわうびてなうひうまんれていと
かうはいうく作とうう海なふかうりうへし

そこそこしたる心の色どもつくしまつりたんその
ふかひなきされかりさ海のあれまゆしうえて
しうまふしも袖ぬらししるなんこころなげきひさる
れけるれ人ばてなしでこそこそしたるせだや
係あしわるれ海るこころあいうくともこそこそこち
なぶこうへる波はめざまうしうんとのまへばけよ
こそいとうこそれとて
お納会
よるなこの心もたしでわれ海よしまもか
びんほどそうさうりなきしくこそこゆり
さ海のなれるるすうつきゆうれまふなるで
こしざんこうちすぐのへるとまこそわさ

人ぐのまへり紫尼ハうへをしひこそこそなるさ
ひまへるまれかそびぐうきどものなをそこそこる
人のおこすう家のおくしまなありと空ゆればお紫
きいでこそお納てよなしこそりつんこそぐ
らこやのおくすうとそこりおりこられひと
らうこう家まれあれどよおなほしいなるべう係
もあすぐらとのまふとそげうこうこうこうこうすう紫
ぐよここなてかういひてぐうとおぼして
めのこよこうこうりていぐうこまこのまへ
ぐいまこうなすぐ巻びまうんこれひぐれうへう
けとのぐれようますこうこうまへとのまへば

めとのされば こそうづあれば ほどもなく
そぐらせ そくまりれば なる心もなくね
まへる でとさ いれてさぐりまへれば なく
うるれぞ ようこつあやくとりてずゑのみさ
やうさぐりつけれる ほどいとうけてう
ぢやうて とくへまへれば なる例なるね
人のくらづさまへるいあそうして ひなんと
ひまをとて ゑのびてひさいりまつさて
すぐりいりて いまは まろぞおまへべさへなりとき
まひとの 続めれといぞなからうそやゆくさう
もはうれてさそしさせ ゑとせ ゑとさうなるの

ゑうも はうじ おとて うるげよゑひれば
湯 りともうる ほどというぐもあうんなる ゑぐ
うる ゑあ心ざしのなどをうてうるへとのまま
あれりられてすぐさまなるいぞうう
人ずくなる心ばそくてすぐ 寝 んとうちおい
まていとうすてぐうる程 なれば ごうしまいり
ひまれおそろこさ れのうなあるとの井ぐん
まて はうん人ぐちうまうれようとていと
なれぐりまみ 枕 のうちるうさいぐうていりまへど
あやうるおまひのほうまとあうれてれまく
おうりめれとたうしろあうりなうとゑへど

あしまうさうさてしさくべきさけねだうちなげ
さけかさりけ紫ぐぶいとおそろしいるるんと
わるれていとうけうされたぐつきもそろ
さむげるおぼしるる紙らうくおぼしるびと
ぐりををしくさうて心がれそちもいうさて
おぼしの人ど袁あれようちうさひのて いざさまへよ
おうさうさなどおぼくひおかのをびなどする所ところ
と心はゆくべきことをの給げくひのいくなけう
しうさ紫おされさうちまいていうもをぐず
さすぐるむけうねいうばおぼしてうぐろき
かまへう袁地ひとよ風ふきあるうげ内女れう

さをぐうまうだいうこうぼそうさまうおれ
ぐくらうしうさ御ぐおかしまきまうぐくさくめ
さけへりめれさけうもろめうさうとちうさう
山風すうさうかやうさうる袁ふういぞのする
とありぐかなりや源いと袁あこうそまうるれあり
海を今いまうてうる時のままおぼつかうべし
あけれなぐれんうべる所ところ所うけうさうそまうん
くてのうさけいうぐもれそぐしう海くぐうろう
とのの人ぐ文かの紙うけもれ学うへうなど学ここ治めれど
うれれ四よつ十九日なつすぐしてやなどうひのるとこさ
ゆきべ源けれまうさうすぐちなぐうもうそくすてか

らひのへるふかなごうちそうそう芝てのつあいま
ようそてまれどもあさうめぶこーいまうりぬべ
くなんとてゐいなでつうちごちまて出のひめ
地いごうこさりわれるそこもぐなめよまよい
いとたろうとそてまとのけうもおうし
うりめべきこさうぐくしうおもひふそすいうとも
のびてうもひ絡さろのこちちりけをなば
しいぐうぐうちしうせまへどこさつうる人
なーぐひなくてれともまこもある人へして
うるさも絡
係あさばらけそうりけそうのまのひまも
めすぐぐうさいまがぐれどもうこうひ
うるまうぐこうしもづひと出して
末表ちちりまりうさりのまぐさのすぐうくい
ちさのとぐーるさそうしませーどといひけ
うるいりぬ

まろうとはいでられねばうへるもなきけなされどあ
けゆくそもそもしるるてどものへおりぬおりーう
ぞうへのなどりとひしくひとりあるとつふて
まへりはうとおもふあるものおもておもやり
まるくべきことのくもれいなすねばふでうちまき
つすきひおもへりおりーうきあなどをやをものふ
うしろるふをふーしも変わりまへりどーどろ
ようもこよなうあれまるりひろうもれりる前
のいとぐ人ずくなるびーれだ者わてのて。
物ろる前ろ良いでう主ぐーもおされる人のすぐ
しおもんなをうしまるわーしてまるてん。

なるの所をさぶらはせうじ
たまはせてさうしひなんの紫
まいわうきんへごなどあれど
もうとまるあそびていとようもれ給なんなど
のまふらうようびとせてまつりのまろうの所
うつり香のいとうえんよもこうりの人れど
なりしの所ひやけぶでいとなべてとろ給
ぐるげるおぼいうとしごろもあげきくぐ
すぎまへる人よそひのへるより時ごうしろる
わうりてごとなるしうまへなどもれきをあや
しうまとこのてへもろもくりしとうろ
ぬりみるも拙し給ろんも心ぐるうなどのまへ

おかの会行
なるようはろろばくくとも老ぐしいくておりて
まちなんずるまのく心おもはしろりなんまるる
らせ給ろんしそうくハ侍るべられとろろあるよう
ひるこひこそこのみるこ紫ろ尼を
めさずしてげいといるこもろろさもれもきろう
あそるようくくなやをまの人れどいと
おぼすいまはるるなるきん人のれこと老うひなし。
そのれあれぐなどうろ紫ひ紫きまそ紫ろれど人
らせまるばいと紫心ぼそ紫ろうしとおもひてないまへ
給やもうちなきまのていとうこひなりまそ
ふあまわうしそまつんなど西こうらへを

きて出るあなぐりもとるぐさあぐこうなるさおの
へりゆくさき孔雀のあんこなどもまでもおば
しきぐぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐちちるるおりなるまい
くなるひて今いなるさ人を如ものひるけっとお
ばすぐいこぐるおさるるされこちなれどむの
ゆとるぐりてれいのやうもあそび給ぶばひる
もさてもおぐぐ〜ぐ給をタぐれとなれどを
ぐうくてへだうくてはいでうずず給
えんとなぐさあるびてめれもなきあへり。
深
おのれまとういこれいをこてまれの
へりまつうべきを門をうちりあれどなん心

ぐうこうこてまつ心なくとてとの
おべてまつれのうあおちきなうもあるぶこて
れまてもものづめるこれれこるふ節こて
ゆつけばこふへぐぐのとろうるうでさいるま
れんあかりこものつあでるいこけなくうち
いでこてこせこまふなるどいつもそれといなる
ともおばしこめであきまこるやお納ていこれ
これは充なるお稚どもまてありへてのちやうる
べきれすくきれう稚こうこあやうもあんん
こでいまはうけてもいるびるきれこくこうて
まつるとあや出こうあばーの給みするもいうなう

ぬ心ようなまひとうとなるこれ作りとうとも家
わうとせのひてうーろやすくつうまつれ心おさ
なくまてなーとうとあかなどの結せつるふと
わづらうふなるとりいうれすとごとも芸び
知れそびつうなどいうひてこれ人もとあり
ぐかうを思結そんなどあいなるれいうとうなすげう
しげるもいひなるぶいかもいうなるとふうあ
うんとやとうとうとふまいうりてありさ夜など罪
れだあれるなばーやうれどさてうひ海
そんとすぐるすぐろなる心ちーてうぐーう
まてひあうとうとんやもりうとうんなどつ

まーれだうぐむうんてんとなるされあうは
うびくうてまつれのふくうれば例のこふをぞ
うてまつれるふうとうぐもれありてえまいり
うあをどうろうやなどなりうりやうりのすまいうる
れむうんまとの結とせうりつれどうろあうう
きうてなんどーうろのうまぐふをうれうんまうす
ぐるふばそううとうふんぐもうひうぐれてとうと
ずくなるいひてあうくあいーうらうず拙めひいと
うむけうひなどとつうれいりめうとうい大夜る
おーけうれいのの女とうとうもいめんーう結
くぐまれむつーく芸てあげまとすぐうて。

ひとちよ田をそつてれといふ女をこゝろ
いとなゝめてすきひおもてまいりれば
よきて行さゝ殿とひ給ふ(惟行)しうくなんとさこゆれど
徳ちうなりてゝ(孝)れ家よりやうなりなばわざと
むこへいぞんもすきぐしうべしおさるさへ人
をめすをいぞんとまどさおひなんそのさる
ものぐしへよもちぐさめてやうてんとなし
てあうきうこるものをんこる殿のさうぞく
さなぐしずいぞんひとりみうりなをさこれと
のあふ(惟)けなくうてちめ(係)どさはいうよせまし
さこゝろありてすきぐまうきやうなるべきと人の

なをなびるおもをひとりの心をこゝけうこゝ
ちられめぐくいふれてなりちこゝやのこゝね
いでこまくんもつしるうずろるべきこ
笑(おが)しこゝるれどこてこゝげしてんいてこゝち
おりうべれるぐまるぐ東みう出給(ぞまま)女君れい乃
ちぐくまこゝもけずまれし給ふ(係)こゝいてこゝち
こゝろべきこゝのこゝべる成さひまひ出てゝん
立ちうまりうこゝまんこゝ出まへべさゝみこゝ女へぐ
もこゝぐりうりゝわがれるまてれなをこゝなどい
こゝまりるこれこゝけぐりを馬(ひま)よのこゝておりこゝぬ
門(ど)ちこゝこゝせまへべ心まこゝあまものあけこゝる

まゐ車をやをしひらきいられてらつまどを
なをしてさほどけばお納てさりて出さうう
ぬるおりまをいへばおさるき人くれとの
ごもりてなんなどうけてくれかうちいでさせ
まへるとあのぬりくおもひていふまへわうこせ
まべうなるとそれきさきまれ一くさきてさせを
うんとてなんとのまへばおなすまどようたまどん
いうまうぐしさいつへきてさせ治るむ
とそうちわひてぬうさうりまへばおなすいて
うはいうぐうちうけてあやちきうどもの
ゆうまうきてきすまぐおうい治りおいてれ

笑さ後しうきてんうろなりさぶりをどもうでい
ぬるものうきていうまへばやおなすともえうきてず悪い
なるこ心まるくね治つるをいぐうきおうろう治る
おどろうきて家のれむへよおりうるとをび
れてらばしうれぐしうきうろひなどし
まていざうまへ家のれつうひまいうきうぞと
のまるなりうざりうりうとあうきれておうろうと
ちひうれがあるおこうまるもるうへぞうきい
うきていぞまへば大浦が治などいうまと笑
ばうるはつるまもえまのうめがおばつるれど
心やすうきあまうとうきうしをふうくわうりまへる

なれば、まゐってきこしめすべくそれだに人ひとりまいれよとこのまへ（御前）にぞあるべきしく
て、御ふいとびんなくたんぜんなべさ（膳）、家のわざとせ
ねばとんぢいくらあまりきこしやうんとそれば、
ほどへてうべきさまおかしまさばどもくらもゆり
なんといとおもひやりたるさほどのことまゐれば
きこしめしてうゆなべとさてゆまどば（湯）
のちまも人へいまりなんうとそれば（車）とまを
まへ（御前）あさまういくらあまりとひあんり、わり（紫）
ぞもあやちくなべしてたいまおお（御）納てれで
どもひきさげてこげうもろもろさ衣（ころも）へて

のりめ、二条院（じょうのゐん）にもれば、まゐあうなるあ（御）程な
おくてこのいまれくらあまりとおりまふ
わらべ（紫）とべいとうくるう（保）ぐさいぐさておりまふ
が納てなをいと夢（ゆめ）のうちにいるを
し仰べきとおうとてやすへ（御）ぐ（御）ぐ（御）ぐ

ぞゆゝしくれどゆんどねうぐるいすを
めくるあさいたれがれ帳などもなりぐれこれ
めしてれ帳れ屏風などあるくきてをゆ
れ事のるびひさかろうまなどぶひき
てろぐろうてあれぐひんぐのるいれ
とのねまめまつうておねとれぐろりぬ
わ紫ぶいてむくつけいうますうとなんと
ゆくれまへどうすぐまこゑこてもえなうを
くず御ぶ納云が海よねんとのまこゑいくわ
いまいさけ海とれぐもうまぐうさぐうとそへ
ろうてゆへぶくてまびしくてなうゆてゆうめの

とをうちもゆれずゆれもおぶしずるうねうう
あ宵ゆくまくまこうわるきを尺おかぶ尺のつくりざゆま
きつくひざ反ちくまいくるず夜のすおごゆまを
くれくんやうまこうてくやくこうちすうる
りくるくゆまひゆれぐくるゆ尺女なぐも
まくいざりくりぐうくきまらうとなぐのまいる
おりゆうのるなりれいおとどもぐうこ浪乃
とるなりけうく内表へむくへゆうりとうくへくれ
なくんおぶろけるいあくぐくきめくれ保てうけ
れりゆなぐくるるこまいう日たうねおさゆひて
へ保なくてあくあるとうくべうくへぐゆまけて

そいむ人を語らひて、毎日見べ
きようにもあらぬさまにて、
とありければ、うけおこなひて、
紫 夫はれぞよまくれて、
うてがうろうくかく
もうくあるなんや、あい心やそうるなんよさ
など、今ようすへ男紫 ぬるもいさるれて
うるもうでうそなりうち
うるひつおりを絵あそびの紫 りまれの
りてうせてまろ紫 ろるつくべさとも
そのやうく紫 おきみてうるなりうびの紫 乃

うるやうなるがうちなへうる紫 をうてなるごろ
なくうちあるなどりてお給へるがいとうけて
うるわれもうちあまれてうるふひんげのるいる
わりのへくるる紫 立出てまの紫 ぬのるぐ
のぐさうまへいるまれのお紫 載あるけうやうる
おもろうてみもうあ四位 人位さまぐるひま
なういでいりつげるおう
れ侍従 どもなどうとおう
ておはするもくるるや、紫 えいあるるぐさあ
おくぐれひとなるけうるひうて給やうて
ぬんまもくおぶするやうなるひあなぐる面ぐる

[illegible]

[illegible]

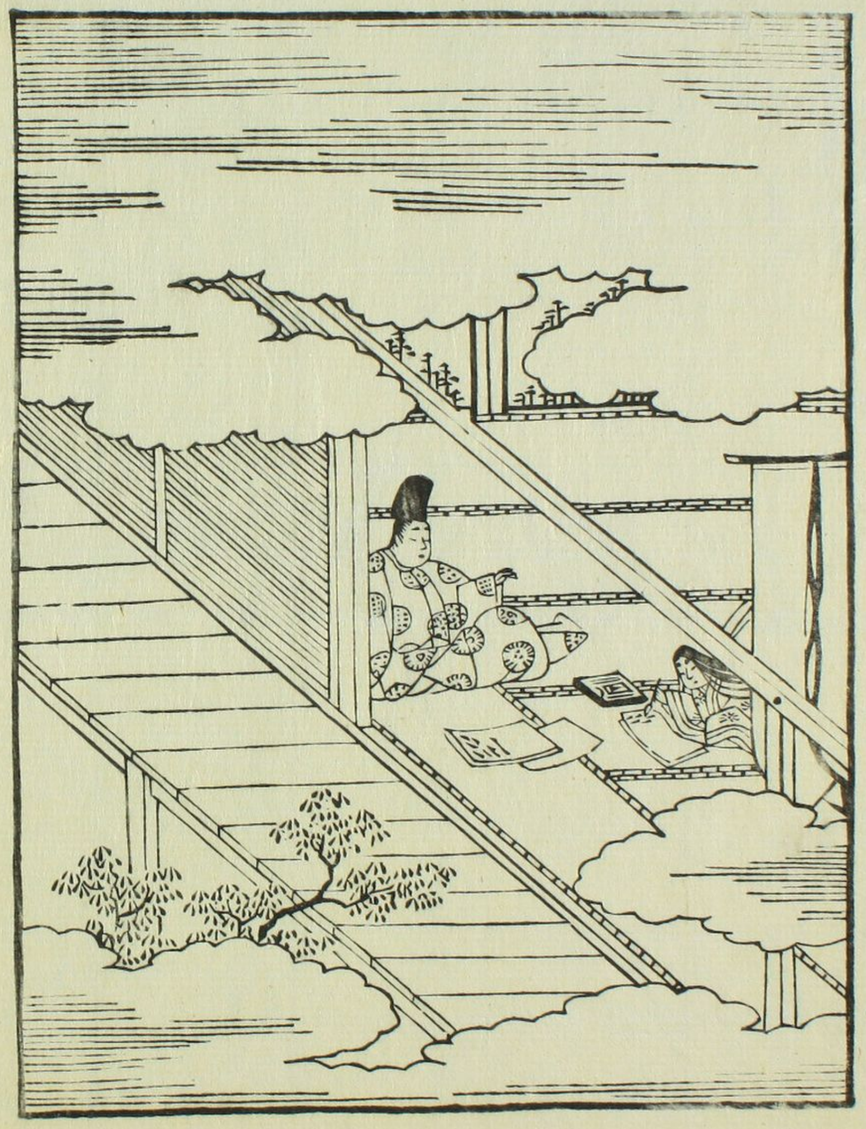
[illegible]

なるとりてこねるすこしちいさくて

[illegible]

[illegible]

[illegible]



こあまぞうみまぞうとりけらまめしてさるはて
なるべくいとまのうういとまのひてんとこそまふ
ひあるべくどうけぶとやどもつとりてげてまろを
まあそびつぐこまたまもれおもひのまぐこい
しなりけれとまろとまうしんぐ家わたり給て
こぐるこそこそ給けりよそてやんうなく
てぞまびあへりけるしぐしんなるせでと
えもものひあ細云まふとなればきちまうち
ぐめやりつぐゆく忍もたこぐ細云がおて
こそこそこそこそとものこそこそすまうやも
ふひなうあ藤てこのまぐまうこそまりて

給ふんことをいとあれしとおぼしたりしと
なればめれとのいとうすくすずしう心ぐるせのあ
まりおいたりるわたさんをびんるなどいたて
心まもてみてくるふつうたりとなく
なくうりあめもきこえいでてまつびげ
よとの給まもづいく傍初の出海まもづる
きこえなへどあとくるるくてあこうりし
れくうちなどこひたくれとおぼす給ふのる
もぐぐこそとすひ冥あける心もうもて
わが心よまもせはべうおもほしけるまうびい
めるぐどうちおうぼしくりやうく人まいり

あつまりめれあそびがきこえれるべちごども
いとめづらしいまりこれはりこ所がなれど
おもふことなくてあそびあり光源おとこどもこの
おそうぐたちさ夕暮なぐりり
ぞあまどもとひたてめひてうちるさなど
しのへど文をばこそとよひいでこえてめんずまと
ようこなくひ冥きみ給くぞなひのれば今いで
これのちのおや源をいこぐうむつびまつり冥きみ給
源ようおはすれいまいで紫むひて衣あれようる
らひれところるいりあていさうくそば
うともせひこそばいこうらうるる

わざなりけり。さらしらぬ心ありなりとれとむけう
しさすぐるなりめれば。わが心ちもすこしづつ
ゝも出るやと心をれ人のうしろぐらきひの
れのゝもとのびゝ出るなれば。ひとおこしさもて
あそびなりむすめどもうどりよりなりめれ
ども。ところやすくうちゐるまひべてなることは
よおもゝなどいふてもすぐしなれども
いとさはうるゝしうづきなりとた
ばいるめり